

OGAWA ISSEI

小川一成
政策の6つの
バックボーン

『豊かなふるさと茨城』のために
6つのテーマを柱に政策を推進していきます。

都市基盤



生活に根付いた都市基盤の整備を推進します。
●常磐新線の早期着工と住民参加の地域づくり
●公共下水道の立ち遅れの解消 ●新大利根有料橋の無料化の早期実現
●乙子踏切の立体化の促進 ●狭隘県道の拡幅と道路体系の整備

自然保護



自然と調和した快適な生活環境をめざします。
●自然との調和を第一に考えた水と緑の豊かな地域づくり
●緑化基金条例で緑の保存を促進
●リサイクルを考えたゴミ問題との取り組み

社会福祉



生きがいと健康の環境づくりを推進します。
●ショートステイ事業やサービス施設の充実
●心身障害者への自立助成と就労施設の充実
●シルバー人材センターの充実

国際交流



草の根レベルでの心の国際交流をめざします。
●国際芸術文化交流拠点整備推進事業(アーカス構想)の実現
●地方自治体・民間レベルでの交流の促進
●青少年の海外研修制度の充実

教育・文化



心ふれあう創造力豊かな教育環境づくり。
●生涯学習とスポーツの振興
●人権を大切に作る心豊かな青少年の育成
●県文化施設の誘致による文化の振興

産業振興



賑わいと活力ある地域づくり。
●農地利用の高度化と後継者の育成
●魅力ある商店街づくりの振興
●取手駅周辺の土地区画整理事業の促進

小川一成プロフィール 昭和22年9月20日生まれ 家族 父・母・妻・長女・長男・次男

- | | | |
|---|---|--|
| 学歴
○守谷町高野小学校卒業
○守谷中学校卒業
○県立水海道一高卒業
○明治学院大学卒業
(大学在学中に1年間、欧州、アフリカ、中近東など諸外国を一人旅) | 経歴
○高野小学校PTA会長
○愛宕中学校PTA会長
○水海道一高PTA会長
○昭和47年タクシー会社設立
○守谷町商工会青年部長
○日本青年会議所関東地区褒章委員長
○第1回守谷町青少年海外派遣団団長として渡米
○小川交通(有)代表取締役 | ○守谷町国際交流協会会長
○守谷町議会当選2回
○建設委員会副委員長
○守谷町緑の審議会副会長
○社会教育委員会議長
○常磐新線建設促進まちづくり対策特別委員会副委員長
○ボーイスカウト守谷第1団団委員長 |
|---|---|--|

「小川一成後援会」規約

- 名称・「小川一成後援会」と称します。
- 目的・この会は、小川一成の政治活動を支援し、同君と共に明るく、住みよいまちを作るため努力し、その目的達成のため、後援会・研究会などの事業を行います。
- 組織・この会は目的に賛同するものを会員として組織します。
- 役員・この会は会長1名、役員若干名をおきます。
- 運営・この会の運営は規約により行い、規約にない事項は役員会で決めます。
- 経費・この会の経費は寄付金その他の収入をもってあてます。

小川一成

茨城に生き、茨城を活かす！
おがわ いっせい



みどり・いのち  そして夢

直撃

Q&A

小川一成の信念と県政

Q

町会議員として2期目となりますが、政治の世界に入った動機は？

A

青年会議所での活動を7年間行ってまいりましたが、青年会議所の究極の目標である「明るい豊かなまちづくり」を目指すには政治の世界に踏み込まなければ実現できないことが多いと思います。また、勉強してきたことが即、政治に反映できると考えたからです。



Q

政治の世界に入ってみて、入る前との違いで感じたことは？

A

議員というのは住民の側に立って、住民の願いを行政に直接反映させる立場にあるわけです。それだけに自分の言葉ひとつひとつの重みを感じます。住民の皆さんが望んでいることをどう実現させるか、理想に向かって一步一步現実を変えていく必死の努力が政治であって、議員6年間において、住民の考えている方向に少しは近づけていけたのではないかと考えています。

Q

今の茨城県政をどう見ていますか？

A

近年、都市のドーナツ化現象と各種交通網の発達で、流入人口も増え、茨城県の開発は急激に進められています。県も開発・都市基盤の整備等には積極的で、日々の生活の利便性の向上という観点ではとてもいいことだと思います。しかし、「開発」と対局を成す「自然保護」ということになると現在の県政には不満を隠せません。「開発」と「乱開発」のボーダーラインはまさしく「今」だと思っています。また、今後の高齢化社会に対する福祉環境の充実、国際化に対応できる自治体レベルでの国際交流、未来を見据えた教育・文化問題への対応など、早急に対応していかなければならない問題も数多く残されていると思います。

Q

産業としての農業について、今後考えていかなければならないことは？

A

ここ、県南地域は首都圏への供給地域として、野菜の生産に力を入れています。また酪農に従事している地域もあり、搾乳の量も多い。ただ河川区域にあるので、洪水の時に水害の心配があります。安全な場所に移っていただけるように建設省との話し合いも在りましたが、なかなか解決できていません。将来に展望が持てるようにしていかなければならないと思っています。

Q

守谷町と取手市が合区になって初めての選挙になりますが、両地区に共通する課題としてどのようなものがありますか？

A

いよいよ本格的に始動する常磐新線が導入されると、県南、とくに守谷・取手は大きな影響を受けることとなります。もちろん私たち住民が待ち望んでいた大プロジェクトであるわけですが、騒音、電波障害、景観、町の分断など課題も山積みしています。導入への上手な対応の方向性を定めるには、ここ4・5年が重要だと考えます。また、守谷・取手は茨城県の中でも住まいは地元、職場は東京といういわゆる「茨城都民」の方が特に多いわけですが、それらの方々や子供達に「ここが故郷」と親しまれるまちづくりをしていく必要があります。それにはまず、まちの文化遺産といえる「緑」の保護、つまり急激に進められる開発の中で緑を造成する事も必要ですが、それ以上に、現在ある緑を上手に取り込んだまちづくりをしていく必要があると思います。大切な事は開発に視点をおいたまちづくりではないという事です。そのほか地域の皆さんが身近な問題として願っていることに、柏市に通じる大利根橋の無料化があります。また関東鉄道の乙子の踏切の立体化についても強く県に働きかけ、早期実現できるように努力をしていきたいと思っています。

Q

青少年の国際交流についての考えは？

A

私自身が大学時代に1年間、ヨーロッパ・中近東等を独りで旅をし、数多くの有意義な出会いや体験をしたという経験から、ホームステイの派遣やアメリカコロラド州グリーリー市との姉妹都市締結など、青少年の海外派遣を積極的に推進しています。人と人の心の交流を重視するならば、中央政府の対応に頼るのではなく、自治体レベル・民間レベルでの国際交流が重要だと考えています。今後は海外からのホームステイ受入れなども前向きに進めていきたいと思っています。

Q

福祉政策・高齢化問題についての施策は？

A

どうすれば豊かな老後を送れるのか、政治がキチンと手を差しのべなければなりません。大学時代、福祉先進国の北欧に行きましたが、なにが人間にとって豊かで幸せなのか、いまだに疑問に思っていることがあります。歳をとっても老後まで国に保証されているせいか、老人たちに覇気がないように感じたのです。反面、歳をとっても働ける幸せというのものもあるのではないかと感じました。しかしハンデキャップのある人、また働けなくなって歳を重ねなければならなくなった人たちには**充分な手を差し**のべるのが行政の役割だと思います。



Q

子供たちの成長や教育の問題については？

A

県南地域は人口急増で毎年学校が新設されています。特に取手・守谷は新しい先生の着任が多いところですが、先生方の奥の深さ、幅の広さが子供たちに大きく影響すると思うのです。挫折を知らない先生も多いと思いますが、子供がつまずいたとき、痛みの分かる先生であってほしいと思います。



支持者の声

私たちは小川一成氏を応援します！



明治学院大学・学院長
ゼミ恩師
中山 弘正先生

60年代の末に私のゼミナールの学生であった頃から小川君は誠実とファイトのかたまりのような人物でした。この人は多くの人々のために働く人となるにちがいないと感じていました。茨城の地に平和と正義を大河のように流す人となって下さい。そして母校の建学精神にのっとり、奉仕される者ではなく奉仕する者となって下さい。小川君がんばれ！



海老原 博さん
(取手市)

私が最初に小川一成さんに出会った時の印象は、たいへん深いものがありました。部屋のあちこちに書かれた名言や理想、又山積された多岐にわたる本から、穏やかで人のよさそうな外見とは別の、理想を求める青年特有の熱い情熱を感じたからです。その後お会いする毎に、彼の情熱がきわめて純粋であり、大変な努力に裏付けされていることに深く共感をおぼえました。彼なら何かするだろう……と思わせるパワーを常に持っていて、それが決して自分の名誉や利益のためでなく、今の混迷した世の中に何が大切で何をすべきかを明確にわかっている人の一人だと思います。私は、小川一成という万年青年を推薦致します。



青山学院女子短期大学在学
水上 早苗さん
(守谷町)

私が、アメリカ・コロラドでのホームステイを体験した時の団長が小川さんでした。小川さんの印象は「行動する人」です。そして、その行動はいつも「人のため」です。行動力に満ちあふれる小川さんを、尊敬しています。